江戸城と内堀をめぐる

都会の真ん中に広がる緑豊かな皇居東御苑は、名城・江戸城跡。
一歩足を踏み入れると、迫り来る巨大な石垣に圧倒されるはず。
江戸城内はもちろん、お堀端に点在する
江戸の面影をたっぷり紹介します。
将軍の気分を存分に味わって！

江戸城の正門
1 大手門
map F-4

築城名手として知られた津藩の初代藩主藤堂高虎らによって、慶長年間(1596~1615)に創建された。江戸城の正門にあたり、参勤交代で江戸に滞在していた大名たちが、新年や月次で登城する際に使用された。現在の門は、1967(昭和42)年に復元されたもの。

江戸城最大の検問所
2 百人番所
map F-4

皇室ゆかりの品を収蔵・展示する三の丸尚蔵館を過ぎ、大手三之門の石垣を抜けると、左手に現れるのが百人番所。城内最大の検問所で、与力20人・同心100人に加え、鉄砲百人組と呼ばれた根来組、伊賀組、甲賀組、二十五騎組が昼夜交代で警備にあたっていた。

天守の代用とされた櫓
3 富士見櫓
map E-5

皇居東御苑の南端に位置し、現存する唯一の江戸城の三重櫓である。明暦の大火(1657年)で焼失したものの、2年後に再建。同じ火事で失われた天守の代用とされた。どこから見ても同じような形に見えることから、「八方正面の櫓」とも呼ばれている。

巨石の石積みに圧倒される
4 天守台
map E-4

江戸城に天守があったのは1607(慶長12)年から約50年。その間に3度建て替えられた。家光の時代に建造された最大にして最後の天守は、明暦の大火で焼失。天守台は再建されたが、天守の建設は保科正之の進言で城下の復興を優先して、中止された。

小堀遠州が作庭した
5 二の丸庭園
map F-4

二の丸は、将軍の世嗣(後継者)や前将軍の正室のための御殿が置かれた場所である。鑑賞や遊興の場として親しまれた池泉回遊式庭園は、1630(寛永7)年ごろに、武家で茶人の小堀遠州が作庭した。現在の庭は、1965(昭和40)年に復元したもの。

大奥女中の通用門
6 平川門
map F-4

三の丸の正門である平川門は、1620(元和6)年に仙台藩初代藩主の伊達政宗らによって築かれた。別名「お局門」と呼ばれるのは、本丸大奥に通じていたため奥女中が通用門として使用したから。また、城内の死者や罪人などの出口とされたことから不浄門ともいう。

江戸東京の基礎を築いた武将
7 太田道灌公追慕之碑
map F-4

平川門を出て左手に、3つの石を組んだ石碑がある。江戸・東京の繁栄と発展の基礎を築いた室町時代の武将太田道灌の追慕碑だ。1457(長禄元)年、太田氏は現在の皇居東御苑あたりにわずか1年で江戸城を築城したという。この碑の材は、虎ノ門の石垣の一部。

天下祭りの山車も通った
8 竹橋御門跡
map E-4

北の丸東の出入口で、1620(元和6)年、平川門と同じく仙台藩主伊達政宗らによって築かれた。天下祭り(神田明神と日枝神社の例大祭)の山車行列が通過したのもこの門だった。門は撤去されてしまったが、平川門へつながる細長い帯曲輪は健在。

紀州徳川家に由来する
9 紀伊国坂
map E-4

東京国立近代美術館前から内堀通りに通じる代官町通りが「紀伊国坂」と呼ばれているのは、紀州徳川家の屋敷があったことに由来する。坂道は竹橋門(竹橋駅付近)の入口へと続いていたという。紀州徳川家の屋敷は明暦の大火後、現在の紀尾井町へ移転した。

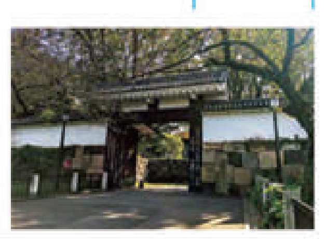
春日局も暮らした場所
10 北の丸公園
map DE-3

北桔橋門方向に向かって紀伊国坂を上ると右手に北の丸公園が広がる。ここは、江戸城北の丸にあたり、江戸時代初期は内藤清成ら代官の屋敷があった。その後、3代将軍家光の弟忠長や春日局が居住。江戸中後期には、御三卿の田安家と清水家の屋敷となった。

江戸時代の面影が残る
11 清水門
map E-3

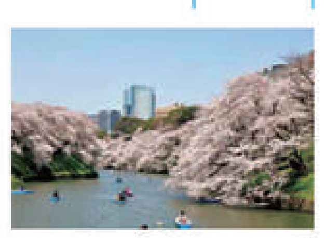
北の丸公園の北東に位置する清水門は、江戸城内郭の門のひとつ。広島藩の初代藩主浅野長晟らによって1624(寛永元)年に築かれた。1759(宝暦9)年、門内には、9代将軍家重の第2子が創設した清水家の屋敷が置かれた。重要文化財に指定されている。

現存する最古の江戸城門
12 田安門
map D-3



北の丸公園北端の田安門は、1636(寛永13)年に福井藩初代藩主の松平忠昌らの造築。1730(享保15)年、門内には、8代将軍吉宗の第2子が創設した田安家が置かれた。幾度か改修をされたものの、現存する最古の城門。重要文化財に指定されている。

江戸の水を確保するダム
13 千鳥ヶ淵
map D-3



江戸開府当時の千鳥ヶ淵は、水を確保するためのダムとして機能していた。麹町から流れる小川をせき止めることで水源を確保したのだ。この水は、江戸城草創期には、本丸と西の丸の間を通って日比谷入江(現在の日比谷公園あたり)に流れ込んでいた。

服部半蔵が警固した
14 半蔵門
map D-5

江戸城の西側、内堀通りに面する半蔵門は、江戸城の主要な出入口。江戸五口のひとつで、甲州道の出発点でもある。1620(元和6)年築造のこの門の名は、旗本服部半蔵正成が麹町に組屋敷を拝領し、警戒にあたったことに由来するともいわれている。

別名「千代田城」が区名の由来
15 江戸城跡石碑
map D-5

1457(長禄元)年に太田道灌が築城。「千代田城」「江城」とも呼ばれた。1590(天正18)年には徳川家康が入城。その後300年近く、将軍の居城として政治の中心となったことの歴史的価値が認められ、特別史跡に指定されたことを示す。

桜田門間近に位置する
16 井伊掃部頭邸跡
map D-6

憲政記念館一帯には、江戸時代初頭、熊本藩主加藤清正の屋敷があった。清正が掘ったと伝えられる「桜の井戸」も残る。その後、彦根藩井伊家の上屋敷となる。掃部頭は歴代の井伊家宗家の当主が名乗った官職で、幕末の藩主井伊直弼も掃部頭を名乗った。

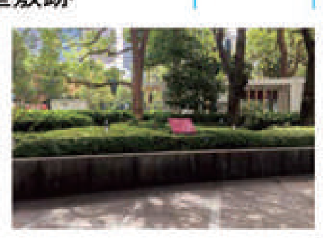
江戸城最大の枡形門
17 桜田門
map E-6

江戸時代には「外桜田門」と呼ばれ、江戸五口のひとつだった。江戸城の枡形門では最大規模を誇り、重要文化財に指定されている。1860(安政7)年3月早暁、登城するため屋敷を出た大老井伊直弼が、水戸藩浪士らの襲撃を受けたのは、桜田門外の堀端だった。

波瀾万丈だった上杉家の藩邸
18 米沢藩上杉家江戸藩邸跡
map E-6

桜田門の正面は、米沢藩上杉家上屋敷だった。初代藩主景勝は会津若松120万石を領した大大名だったが、関ヶ原の戦いの際に西軍に与し、出羽米沢30万石までに減封。その後、さらに15万石に減封された。米沢藩を立て直したのが、9代藩主鷹山だった。

名奉行が暮らした場所
19 大岡越前守忠相屋敷跡
map E-7



東京メトロ霞ケ関駅前の弁護士会館には、大岡越前守忠相の屋敷があった。8代将軍吉宗に抜擢され、江戸町奉行となった忠相の公正で人情味ある裁きは、講談や落語で広く伝わる。町火消制度や小石川養成所の創設にも尽力し、大名にまで栄進した。

吉田松陰も出入りした
20 長州藩上屋敷跡
map E-6

江戸時代初期には日比谷公園一帯は、入江だった。公園内の心字池は、その名残だといわれる。慶長年間(1596~1615)に埋め立てられ、長州藩など有力大名の屋敷となった。案内板はないが、「東都桜田長州屋敷図」などにも描かれている。

セレモニーと縁の深い
21 馬場先門跡
map F-6

広島藩の初代藩主浅野長晟らによって1629(寛永6)年に創建された。門名は、3代将軍家光が、朝鮮から派遣された外交使節団の曲馬を門内の馬場で上覧したことに由来。日露戦争大勝の祝賀行列が行なわれた際、死傷者が出たため、門は撤去された。

復元した橋と濠の景観が見事
22 和田倉門跡
map F-5

東京駅正面から皇居外苑に通じる行幸通りの北側に位置する和田倉門は、1620(元和6)年に仙台藩主伊達政宗らによってつくられた。現在の復元された橋は木橋を模したコンクリート造だが、まわりの濠などと調和した美しい景観は、江戸情緒を感じさせる。

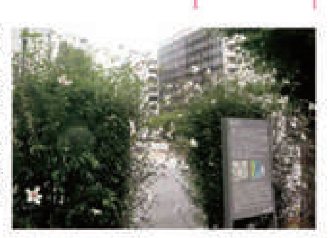
大名屋敷と外堀をめぐる

江戸の町がいかに防衛、治安にすぐれていたのか、
外堀沿いの史跡を巡ってみると実感できるに違いありません。
また、早くから経済や文化が発展した、
活気あふれる大都市の顔を紹介します。
江戸っ子気分で歩いてみよう！

大岡越前が活躍した
1 南町奉行所跡
map FG-7

JR有楽町駅の中央口前広場は、江戸町民の行政、裁判、消防などを担当する南町奉行所だった。名奉行大岡越前守忠相が手腕をふるった場所。発掘調査の結果、下水溝や井戸などが出土。広場には石垣が地下広場には穴蔵(地下室)が復元展示されている。

馬場先門へとつながる外郭門
2 鍛冶橋門跡
map G-6



JR東京駅八重洲口前を通る外堀通りは、かつて江戸城の外堀だった場所。鍛冶橋門は、1629(寛永6)年に秋月藩主黒田長興らによってつくられたが、現在は説明板が残るのみ。門前には御用絵師として江戸城本丸の襖絵を描いた狩野探幽の屋敷があった。

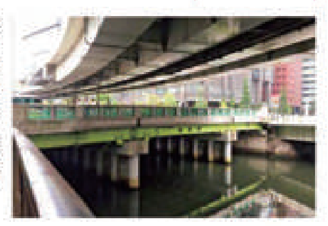
「遠山の金さん」でおなじみ
3 北町奉行所跡
map G-5

北町奉行所はたびたび移転を繰り返したが、1805(文化2)年以降は、現在のJR東京駅日本橋口前に置かれた。遠山の金さん(遠山左衛門尉景元)も、3年間ここで奉行を務めた。発掘調査で奉行所の上水道や井戸が発見された。近くには江戸城外堀の石垣も残っている。

越前松平家が最後に居住した上屋敷
4 福井藩常盤橋江戸上屋敷跡
map G-4

最新のビジネスセンター大手町プレイス一帯は、越前松平家の上屋敷だった。初代藩主は徳川家康の次男結城秀康。松平姓を名乗ったのは、2代忠直以降。上屋敷は麹町、龍ノ口、浜町と移転したあと、1713(正徳3)年に常盤橋に移り、幕末までこの地にあった。

将軍の御成道だった
5 神田橋門跡
map G-4



真岡藩主稲葉正勝らによって、1629(寛永6)年に築かれた。神田橋門は江戸五口のひとつで、将軍が菩提寺である上野寛永寺や日光東照宮に参詣する際の御成道だった。残念ながら、現在では橋の横にわずかに枡形の石材が残るばかりとなっている。

中山道に通じる要所
6 筋違門跡
map GH-2

現在の昌平橋と万世橋の間にあった。神田橋門と同様、将軍が上野寛永寺に参詣する際の御成道で、日本橋から本郷に通じる中山道と斜めに交差する要所だった。1872(明治5)年の解体後、枡形の石は万世橋(東京初の石造アーチ橋)に再利用された。

江戸を見守って1300余年
7 神田明神
map G-1

創建1300余年の神田明神は、江戸の総鎮守。当初は、平将門の首塚付近(大手町)で起こる祟りを鎮めるために、首塚近くに創建された。江戸城の表鬼門となる現在の場所に移ったのは1616(元和2)年。境内には『銭形平次捕物控』で人気の平次の碑もある。

幕府直轄の学問所
8 湯島聖堂
map G-2

神田明神からお茶の水方面に下って聖橋の手前にある。創立者は徳川家康をはじめ4代の将軍の侍講を務めた儒学者林羅山だ。1630(寛永7)年に私塾として開設し、のちに幕府直轄の学問所に発展。聖堂には、儒学の創始者である孔子が祀られている。

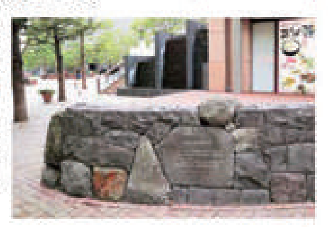
将軍も認めた名水
9 お茶の水石碑
map F-2

JR御茶ノ水駅お茶の水橋口の交番横に、地名の由来の石碑がある。鷹狩りに出た2代将軍秀忠が、この付近の高林寺に立ち寄ったとき、境内の名水で茶を点てた。その茶が美味しかったので、以後、将軍家の茶の湯に、この水が用いられることになったという。

「水戸様御門」と呼ばれた
10 小石川見附跡
map DE-1

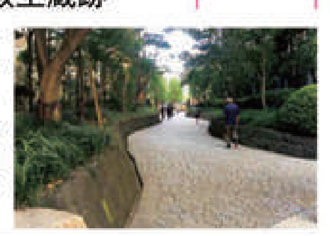
江戸城の外郭門のひとつ。1636(寛永13)年に、岡山藩の初代藩主池田光政らの築造。水戸藩徳川家は、明暦の大火後、江戸城西の丸の吹上から現在の小石川後楽園に屋敷を移され、この門を守った。解体後の石垣は、常盤橋門再建に利用された。

黄門様ゆかりの人々が暮らした
11 讃岐高松藩上屋敷庭園跡
map D-2



JR中央線の飯田橋駅南側の商業施設一帯には、高松藩松平家上屋敷の庭園があった。藩祖松平頼重は、水戸藩初代藩主頼房の実子で光圀の兄だ。遺跡調査で泉水の護岸石が発掘され、現在は「平川の径」として整備され、石はほぼ当時のまま配置されている。

江戸前期の地形を感じる
12 讃岐高松藩上屋敷土蔵跡
map D-2



高松松平家上屋敷は、江戸時代初期までは、神田川の下流の平川と小石川の合流地点にあり、水害が多発していた。1620(元和6)年に、江戸城下を洪水から守るため、三崎町で堀留めにし、平川の流れを付け替えた。屋敷の遺構の下から川の護岸石が発掘されている。

石に刻まれた普請大名の印
13 牛込見附跡
map C-2

上州道に通じる江戸城外郭門のひとつ。外濠に面した見附のなかでも、江戸の遺構がもっともよく残る。1639(寛永16)年、徳島藩の初代藩主蜂須賀忠英らによって築かれた。解体された角石に、普請した忠英を指す「松平阿波守」の文字が発見されている。

「桜門」の異名をもつ
14 市ヶ谷門跡
map B-3

JR市ケ谷駅の北西、外堀の上に架かる市ケ谷橋は、かつて市ヶ谷門があった場所。橋のたもとの石垣には普請した大名の刻印を見ることができる。発掘された石垣の一部は、東京メトロ南北線市ケ谷駅の構内の「江戸歴史散歩コーナー」に展示されている。

甲州道中を警固した
15 四谷見附跡
map AB-4

市ケ谷から四ツ谷に向かって外濠公園を歩くと、四谷見附跡に突き当たる。甲州道中の出発点に位置し、江戸城の西の玄関にもあたる要所のひとつだった。JR四ツ谷駅麹町口側からは、門の石垣が見える。石垣の上におい茂るムクノキも江戸時代のもの。

尾張徳川家の世嗣や隠居の住まい
16 尾張名古屋藩屋敷跡
map B-5

JR四ツ谷駅前の麹町大通りの北側に位置する上智大学一帯は、徳川御三家のひとつ、尾張藩徳川家の中屋敷だった。徳川家康9男義直を藩祖とする尾張徳川家は、1637(寛永14)年にこの屋敷を拝領すると、幕末まで世嗣や隠居の住まいなどとして使用した。

外郭門で唯一の土塁門
17 喰違見附跡
map B-5

紀尾井ホールの筋向かいにある丘が、喰違見附跡である。1612(慶長17)年に丸亀藩主生駒隆俊らによってつくられた。江戸城外郭門で唯一、石垣ではなく土塁による虎口(城の出入口)で、江戸時代初期の形状が今に留まる貴重な史跡。

4万平米の日本庭園は健在
18 近江彦根藩井伊家屋敷跡
map B-5

ホテルニューオータニの一帯は、彦根藩井伊家の屋敷であった。上屋敷は、現在の憲政記念館あたりにあり、ここは中屋敷として用いられていた。この老舗ホテル内に現在も残る池泉回遊式の日本庭園は、400余年の歴史を誇る名園のひとつ。

2人の将軍が育った屋敷
19 紀伊和歌山藩徳川家屋敷跡
map B-6

弁慶濠沿いに広がる東京ガーデンテラス紀尾井町一帯は、徳川御三家のひとつ紀州徳川家の上屋敷だった。初代藩主は、徳川家康の10男頼宣。8代将軍吉宗、14代将軍家茂を出した。現施設の敷地内にも、屋敷の石組遺構の一部が移築されている。

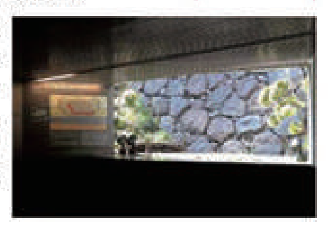
大山参詣者でにぎわった
20 赤坂見附跡
map C-6

弁慶橋を赤坂方面に渡り、左に進むとすぐに赤坂見附跡に至る。1636(寛永13)年、福岡藩の初代藩主黒田忠之らによってつくられた。相模大山に参詣する際の大山道の出発点でもあったので、賑わっていたという。現在は枡形の石積が一部残るのみである。

江戸城の鎮守として崇敬
21 日枝神社
map C-6

「山王さん」の呼び名で親しまれている日枝神社は、太田道灌が1478(文明10)年に江戸城内に山王権現を祀ったのが始まり。江戸時代には徳川家の産神として信仰。その後、江戸庶民の参拝を可能にするため、半蔵門外に移築され、明暦の大火後に現在地へ。

江戸の石積み工法が学べる
22 江戸城外堀跡 (地下展示室)
map D-7



東京メトロ虎ノ門駅付近には、外堀の石垣が数カ所に残っている。1636(寛永13)年、佐賀藩主鍋島勝茂らによって江戸城の総仕上げとしてつくられた。虎ノ門駅の文部科学省連絡通路内で見ることができる。説明板には、当時の石積工法も記されている。

〈用語解説〉

【番方】（ばんかた）
江戸幕府の役人は、番方と役方の2つに大別される。実務官僚である役方に対し、武官である番方のほうが格上とみなされた。

【江戸五口】（えどごくち）
江戸城外郭門のうち、江戸と諸国を結ぶ五街道の出入口となる主要な五門をさす。桜田門(小田原口)は東海道、半蔵門(甲州口)は甲州道中、田安門(上州口)は上州道、神田橋門(柴崎口)は中山道、常盤橋門(浅草口)は奥州道中につながっていた。

【枡形】（ますがた）
虎口(城の入口)を石垣や土塁で囲んだ、四角形の小さな広場。攻撃に出る際の兵の集合場所になるとともに、敵の侵入を防ぐもので、形が四角いことから枡形と呼ぶ。広場の外側に高麗門、内側に櫓門を設けるのが一般的。

【御三卿】（ごさんきょう）
徳川一族で、田安、一橋、清水の三家をさす。江戸中期に将軍家より分立。御三家と同様に、将軍を補佐し、将軍に継嗣がないときは、将軍家を相続することができた。

【帯曲輪】（おびくるわ）
曲輪(廓)は、城を構成する区画のこと。帯曲輪は、本丸などの主要な区画の周囲にある細長い曲輪。

ちよだ歴史さんぽMAP ❶

千代田区観光協会
CHIYODA CITY TOURISM
発行：一般社団法人 千代田区観光協会
住所：東京都千代田区九段南1-6-17
電話：03-3556-0391　FAX：03-3556-0392
E-Mail：info@kanko-chiyoda.jp
ホームページ：https://visit-chiyoda.tokyo
制作：江戸文化歴史検定協会

徳川三代の大江戸町づくりプロジェクト

水、物資の供給体制、町割りと町なみ——
100万人超の大都市江戸の基礎をつくった
徳川家康、2代秀忠、3代家光が
完成させた町づくり。

天下普請の始まり

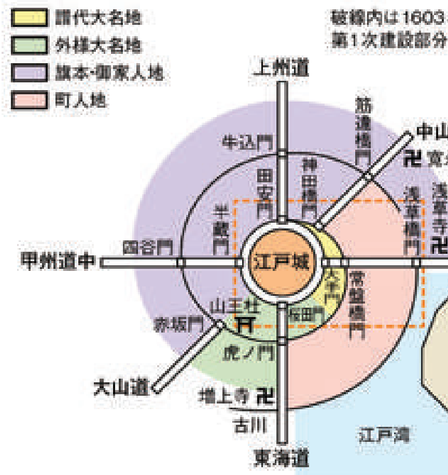
徳川家康が入府した1590(天正18)年ごろ、江戸城は江戸湾の一部である日比谷入江が眼前に迫る小さな城にすぎなかった。しかも、城の東はほぼ湿地帯、西には武蔵野の原野が広がっていた。城も町も大大名には不十分な規模だった。そこで家康は、城のあり方を見直し、新たな縄張り(設計)に着手した。1603(慶長8)年、家康が征夷大将軍に任じられると、普請は諸大名に軍役として課され、幕府主導の下でインフラ建設が本格スタートしたのである。

変貌した江戸

1606(慶長11)年、2代秀忠の時代になると、城の拡張、内堀と外堀の掘削工事に加え、諸大名の屋敷地確保のために日比谷入江を埋め立てた。その後も、秀忠は隅田川河口一帯の埋め立てを進めるのと同時に、下町を町地に、その周辺には寺社を配するなどして幕府の本拠地にふさわしい町づくりを進めた。一方で、平川の流れを付け替えるとともに、江戸城直下まで船が入れるようにするなど、水源の確保と水運ルートの整備にも力を注いだ。

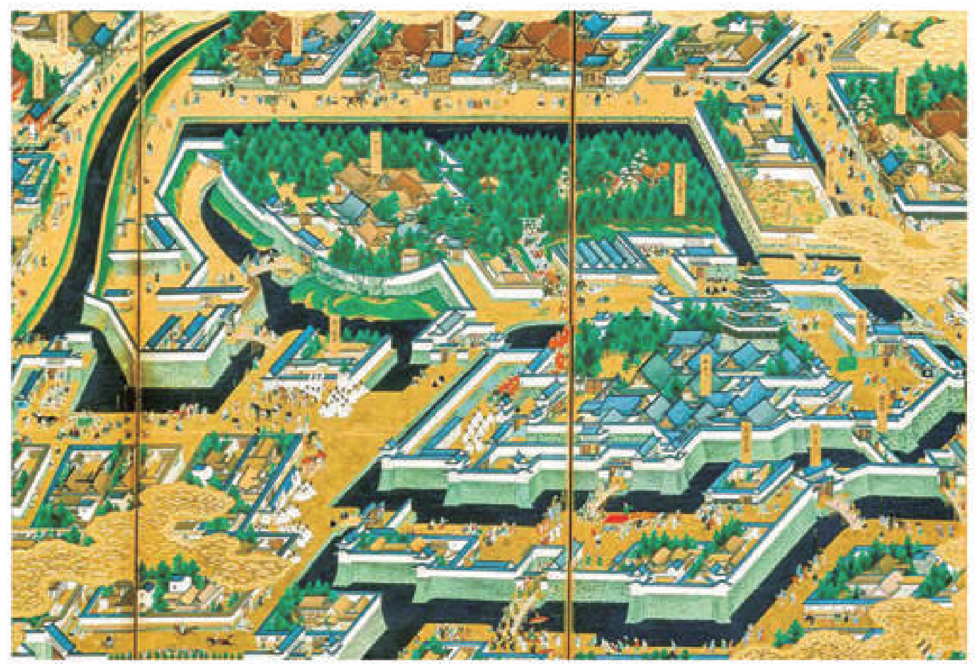
1632(寛永9)年、3代将軍となった家光は、城の西北の麹町地区に新たな堀(外堀)を設けた。これによって溜池から神田川まで堀が繋がった。家光は、その5年後に本丸御殿と天守の建て替えに取りかかる。これらの工事が終わり、1637年に江戸城が完成。整備された江戸の町には、諸国から人が集まり、世界有数の大都市へと発展していく。残念ながら、天下一と謳われた天守は20年後の明暦の大火で焼け落ちてしまうが、その姿は「江戸図屏風」で知ることができる。

地形まで変えてしまうほど大規模な工事が、わずか40年足らずで終えられたのも、将軍に臣従した諸大名が忠誠を競うかのように仕事に当たったからだろう。



江戸の都市構造

江戸の町は、江戸城を中心にして、「の」の字を描くように外へと広がっていった。

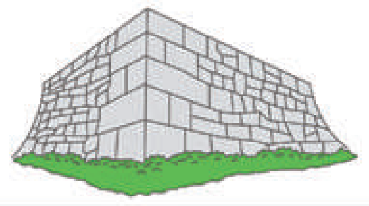


江戸図屏風（左隻部分）

3代将軍家光の功績を讃えて描かれたと考えられている。明暦の大火以前、家康、秀忠、家光によって築かれた初期の江戸の景観を知ることができる。

国立歴史民俗博物館 蔵

石に刻まれた江戸の歴史



江戸城とその周辺を巡ると、
気なるのが巨大な石垣。
人力のみで築いたとは思えない、美しいフォルム。
近世城郭の特徴のひとつ石垣の基本を知ろう。

江戸城は石垣の見本市

石垣の歴史は古墳時代に始まるが、築城技術として花開いたのは16世紀半ば。その技術は近畿地方で発展し、豊臣秀吉の天下統一にともなって、全国の城へと伝播した。江戸城でも、実に様々な石垣がつくられた。江戸城跡は、家康が入府した1590年代から徳川家が普請を終える17世紀半ばまで、約50年間の石垣の変遷を総覧できるのだ。

石垣を見るポイント

石垣は時代によって石材の加工の仕方や積み上げ方が異なり、様々なタイプに分けられる。石垣を見るポイントは石の形と積み方。基本的な石の形(加工)は3種類に分類できる。積み方は乱積と布積が基本として、いろいろな方法がある。

【石の形（加工）方法】

1）**野面積**　自然石をあまり加工せずに積み上げる、鎌倉時代末期に開発された技術。隙間が多く原始的な石垣だが、排水性にすぐれ高い強度を維持できる。欠点は、目が粗く、手掛かりや足掛かりができるため、敵が登りやすいこと。

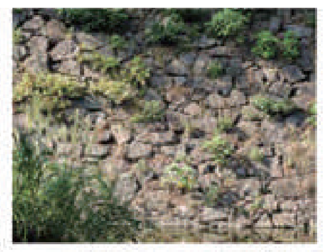
2）**打込接**　1600年の関ヶ原の戦い以降の一般的な工法。石と石の隙間を減らすため、石の表面や接合面を叩いて平坦に整えたのが打込接である。石どうしの隙間が減って、野面積より登られにくくなった。

3）**切込接**　石を徹底的に加工して、方形に整形したのが切込接。1615年以降、この工法が多用されるようになる。

【石の積み方】

1）乱積——横方向の石の列が乱れる
2）布積——横方向の石がほぼ一列に並ぶ
3）亀甲積——五角・六角形に加工した石を積む
4）谷積——石を斜めに積む
5）笑積——巨石を囲むように小さな石を積む
6）算木積——隅角部を組み上げて強固にする

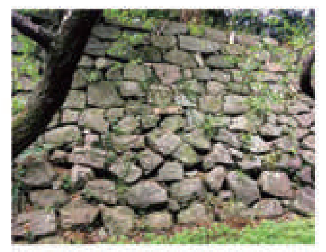
江戸城の石垣の見どころ



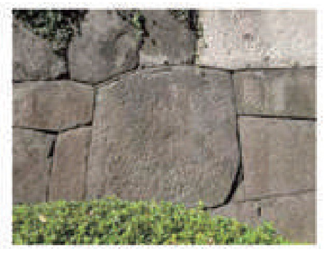
白鳥濠
map E-4

とても高い石垣は圧巻。この石垣は布積と乱積が混在。さらに、この石垣の上方では、もっとも古い野面積を見ることができる。原始的だが、高い技術を要するという。

梅林坂
map E-4

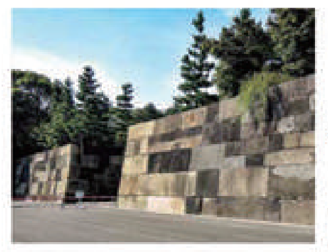


天守と三の丸のあいだにある梅林坂には数種のタイプが混在している。写真の石垣は南面のもので、下部は打込接の乱積、上部は布積となっている。



大手門
map F-4

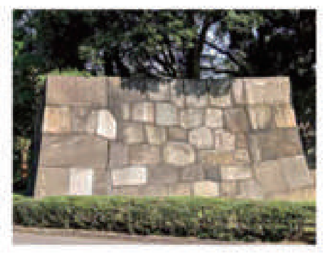
正面の巨石(鏡石)を囲むように積んだ切込接の笑積。表面が滑らかで物を映す鏡石は、光を反射することから悪霊を撃退すると信じられていた。白い石は花崗岩。



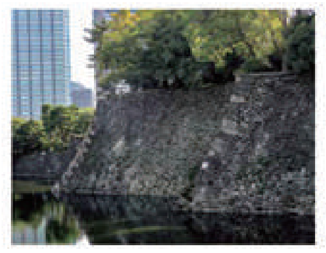
中之門
map F-5

石と石の継ぎ目が横一直線になる切込接の布積。本丸への正式な出入口となるこの門には、江戸城内で最大級の石が使用され、威厳に満ちている。

銅門
map F-5



百人番所から白鳥濠方面へ抜ける際に通る銅門の石垣。石材を五角・六角形に加工して隙間なく積み上げた切込接の亀甲積。江戸後期の工法と考えられる。



北桔橋門
map E-4

北桔橋門はとくに堀が深く、石垣も堅牢。隅角部には花崗岩を用いた。長辺と短辺の石を交互に積み上げる算木積によって生まれた急勾配の美しさに注目。

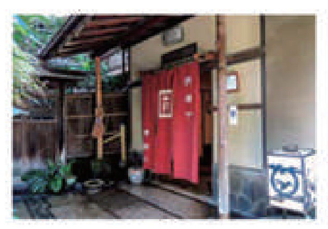
食べて 見て 買って 楽しむ
江戸の味と技

散策に疲れたら、江戸時代創業の
老舗で、食事や買い物をして
一息入れましょう。

🎁 お土産も販売してます。

創業1702年　map G-3　🎁
笹巻けぬきすし総本店
神田小川町2-12

赤穂浪士の討ち入りがあった年の創業。酸味を効かせ、魚の小骨を毛抜きで取り、熊笹の葉で巻く製法は、今も変わらない。



創業1805年　map G-2
明神下 神田川本店
外神田2-5-11

江戸城の賄い方であった初代茂七が始めたうなぎ屋。創業200年、秘伝のタレを今も守り続けている。

創業江戸後期　map I-3　🎁
亀屋大和
東神田1-14-10吉島ビル1階

9代続く和菓子店は、江戸時代のガイドブック『江戸買物独案内』にも名を連ねた名店。伝統の万年最中に加え、どら焼きも評判。

創業1769年　map H-2　🎁
和洋御菓子 松屋
神田松永町1

伊勢出身の初代が、日本橋で店を開く。度重なる江戸の大火で転々とし、1894年に現在地へ。伝統の上生菓子をはじめ、今も機械を使わず、すべて手づくりにこだわる。

創業1780年　map G-5　🎁
小山弓具
神田須田町1-6

創業240年の弓具店。小笠原流の御用弓師となる。弓道の伝統を守る一方で、新素材による弓具の開発も手がける。

創業1869年　map F-3　🎁
神田錦町更科
神田錦町3-14

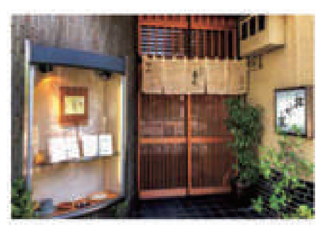
1789年創業の麻布永坂更科の分店として開業。年間に30種類つくられる更科粉を用いた変わり蕎麦が味わえる。

番外編　map F-6
楠公レストハウス
千代田区皇居外苑1-1

伝統和食がテーマの店。古い文献を元に江戸の味を再現した「江戸エコ行楽重」が人気。要予約。

創業1830年　map G-2
いせ源
神田須田町1-11-1

都内唯一のあんこう料理専門店。どじょう屋から始まり、大正時代よりあんこう専門店に。1930年に建て直された風情ある建物。



創業1830年　map G-2
松竹庵 ます川
神田淡路町2-6

老舗蕎麦店の多い神田で、もっとも古く、創業190年を誇る。こだわりの蕎麦と天ぷらは評判。

創業1616年　map G-2　🎁
三河屋綾部商店
外神田2-17-3

三河で糀屋を開業。徳川幕府の御用商人として江戸へ。今も名物「延寿甘酒」の他、味噌4種(仙台味噌、甘辛味噌、合白味噌、白味噌)、米糀、麦糀を創業時の製法で製造。全て無添加。

創業1846年　map G-2　🎁
天野屋
外神田2-18-15

「明神甘酒」と「芝崎納豆」が名物。創業当時からの地下6mにある糀室は、千代田区指定有形文化財に指定される歴史的建造物。

創業1861年　map E-3
九段下 寿司政
九段南1-4-4

日本橋で開業。初代が屋台を引いて商売を始め、大正時代に現在地へ。作家・山口瞳が愛した店。

創業1650年　map F-3
タカサゴ
一ツ橋1-1-1パレスサイドビルB1

一膳飯屋として創業。新選組の近藤勇が立寄ったといわれている老舗。明治時代に洋食屋となった。

創業1596年　map F-2　🎁
豊島屋本店
神田猿楽町1-5-1

『江戸名所図会』に登場する酒舗。白酒は「山なれば富士、白酒なれば豊島屋」と詠われた。「金婚」は神田明神、明治神宮の御神酒。

ちよだ歴史さんぽMAP

江戸城とお堀めぐり

1